

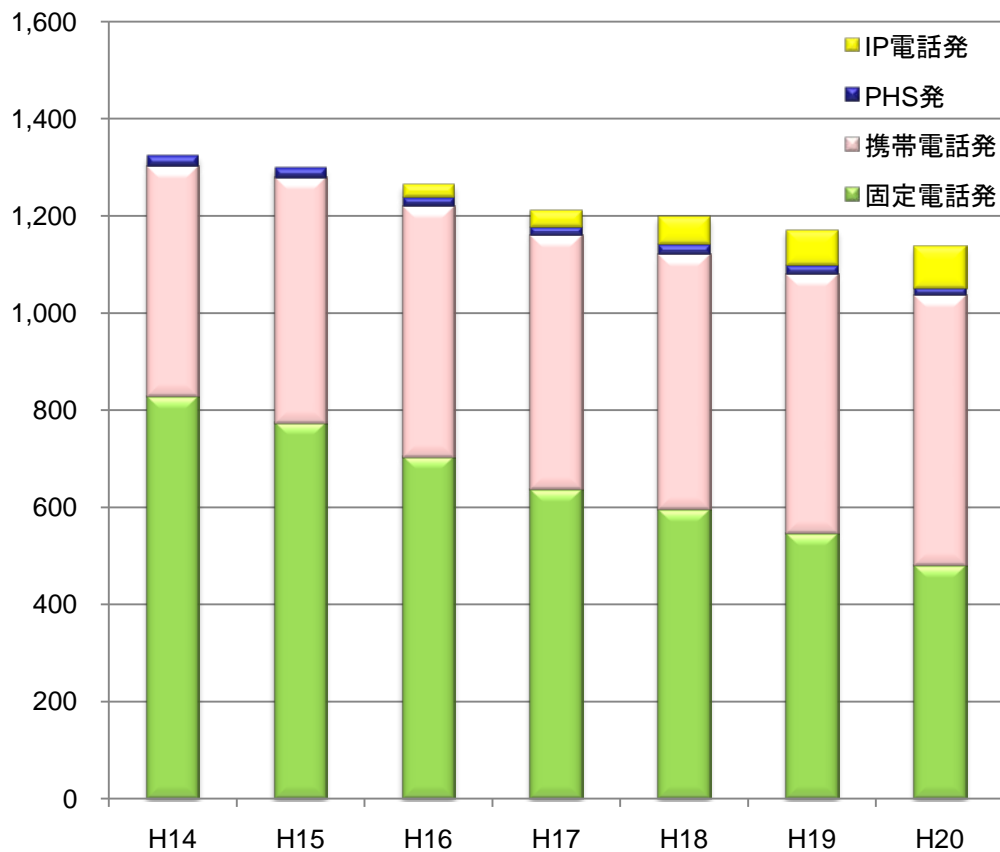
平成22年度接続料算定に向けた 長期増分費用モデルの入力値の見直しについて

- 1) PSTNに係る通信量及び接続料の推移
- 2) 長期増分費用方式を用いた接続料算定方式の推移
- 3) LRICモデルの変遷と研究会の開催状況
- 4) 今回の入力値見直しの概要
- 5) 今後の予定

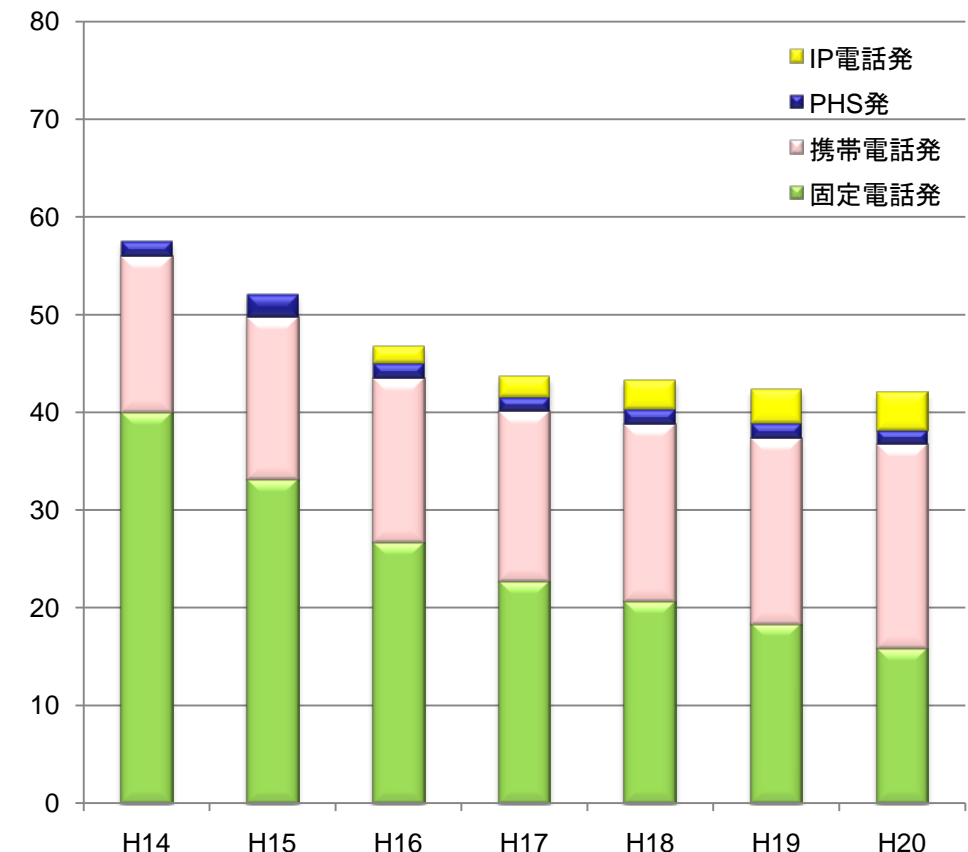
平成21年10月30日
料金サービス課

PSTNに係る通信量推移(発信)

(単位:億回)



(単位:億時間)



(単位:億回)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
IP電話発信回数			27.0	34.7	58.0	72.9	85.8
PHS発信回数	22.2	21.3	17.2	17.0	18.9	18.2	15.5
携帯発信回数	474.5	504.4	516.8	522.3	526.0	533.6	554.1
固定発信回数	827.2	774.4	703.7	637.2	596.2	546.3	481.7

(単位:億時間)

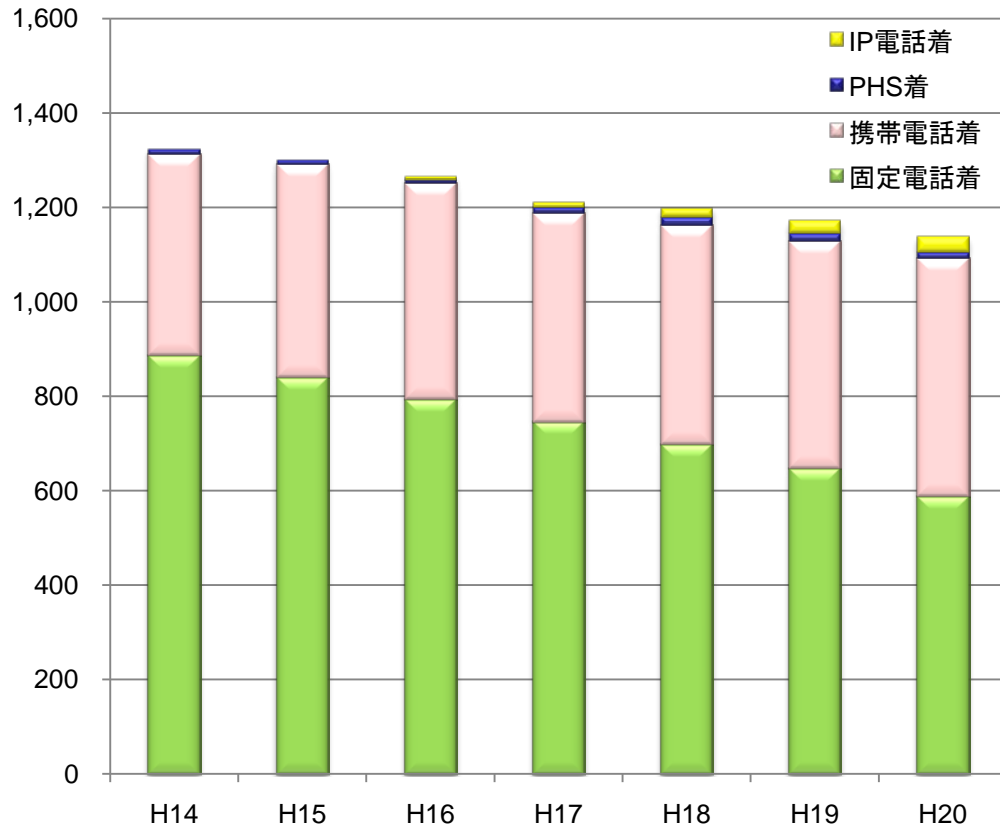
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
IP電話発信時間			1.7	2.1	3.0	3.5	3.9
PHS発信時間	1.5	2.3	1.5	1.4	1.5	1.5	1.4
携帯発信時間	16.0	16.6	16.7	17.4	18.2	19.0	20.9
固定発信時間	40.0	33.2	26.8	22.7	20.6	18.4	15.9

※ 固定は加入電話、公衆電話及びISDNの合計

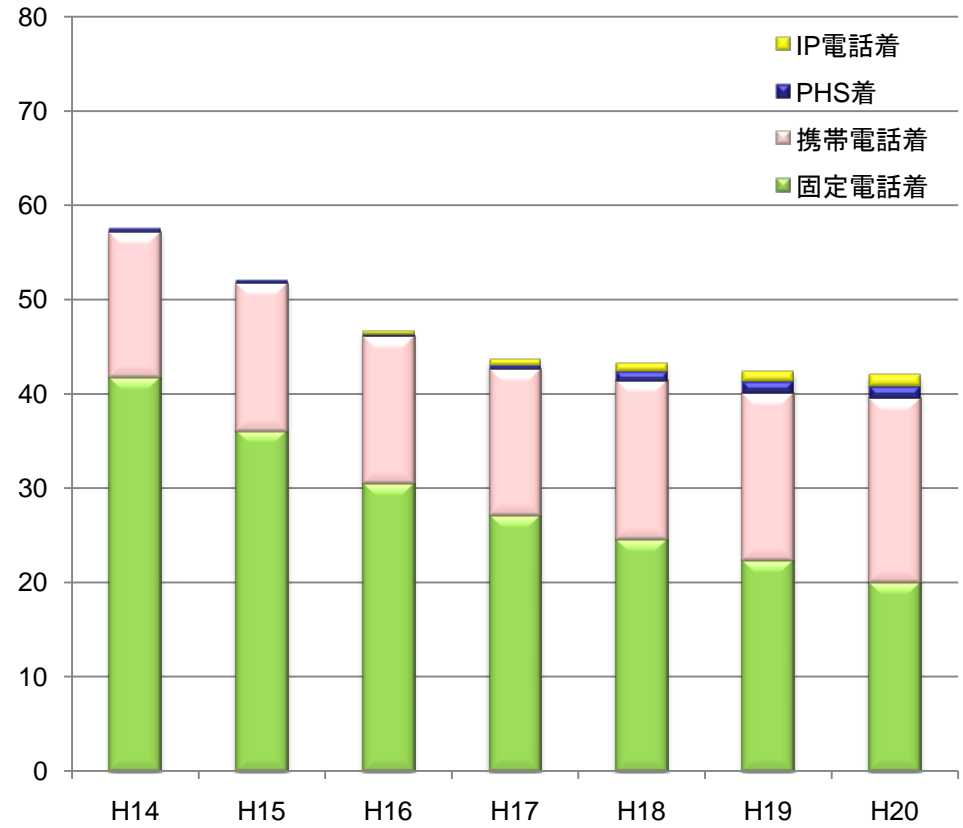
出典:「トラフィックからみた我が国の通信利用状況」(総務省)

PSTNに係る通信量推移(着信)

(単位:億回)



(単位:億時間)



(単位:億回)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
□ IP電話着信回数			5.8	10.9	19.5	27.2	32.3
■ PHS着信回数	11.5	8.7	7.3	11.8	16.9	16.1	13.4
■ 携帯着信回数	425.8	452.0	458.3	442.6	464.3	480.9	502.6
■ 固定着信回数	886.6	839.3	793.3	745.8	698.5	646.9	588.9

(単位:億時間)

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
□ IP電話着信時間			0.4	0.6	0.9	1.1	1.2
■ PHS着信時間	0.4	0.3	0.2	0.4	1.0	1.3	1.3
■ 携帯着信時間	15.4	15.6	15.6	15.5	16.8	17.7	19.6
■ 固定着信時間	41.7	36.1	30.5	27.1	24.6	22.3	20.0

※ 固定は加入電話、公衆電話及びISDNの合計

出典:「トラヒックからみた我が国の通信利用状況」(総務省)

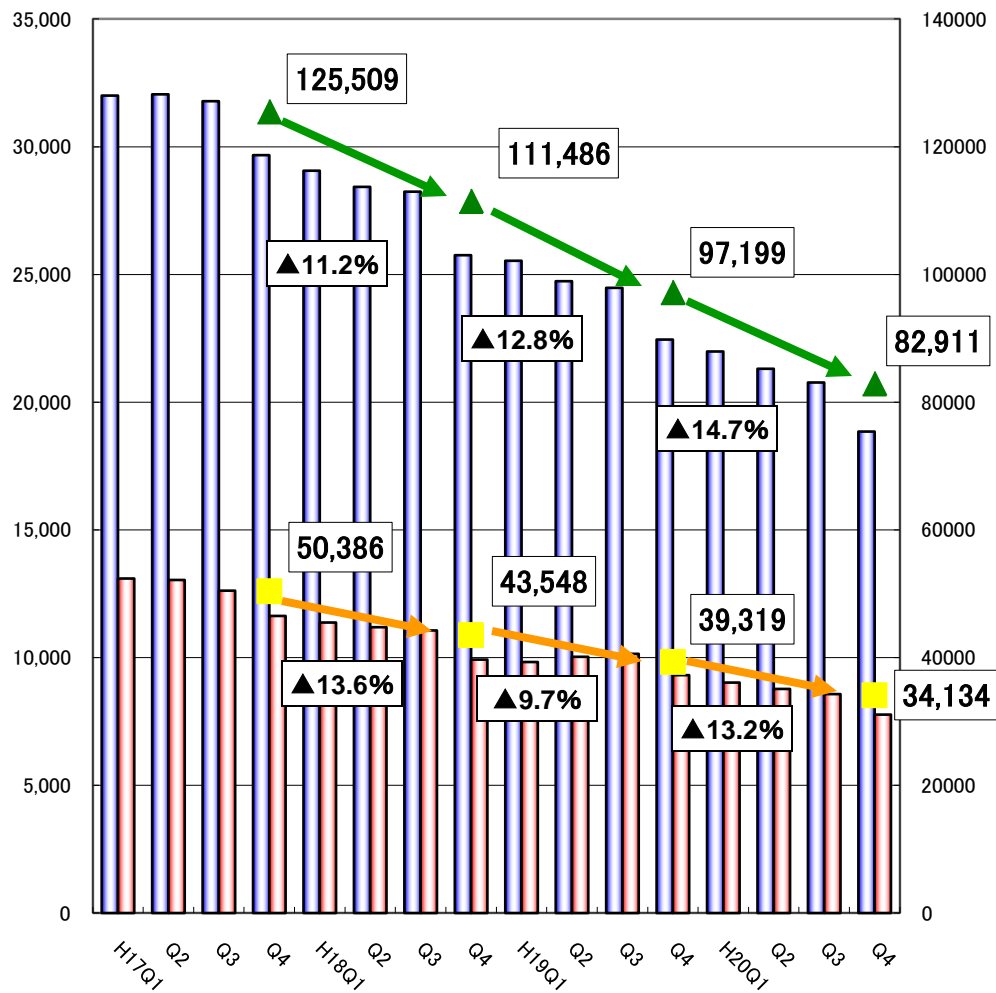
トラヒックの推移

(NTT東西の交換機を経由する主要な通信量)

通話回数

四半期

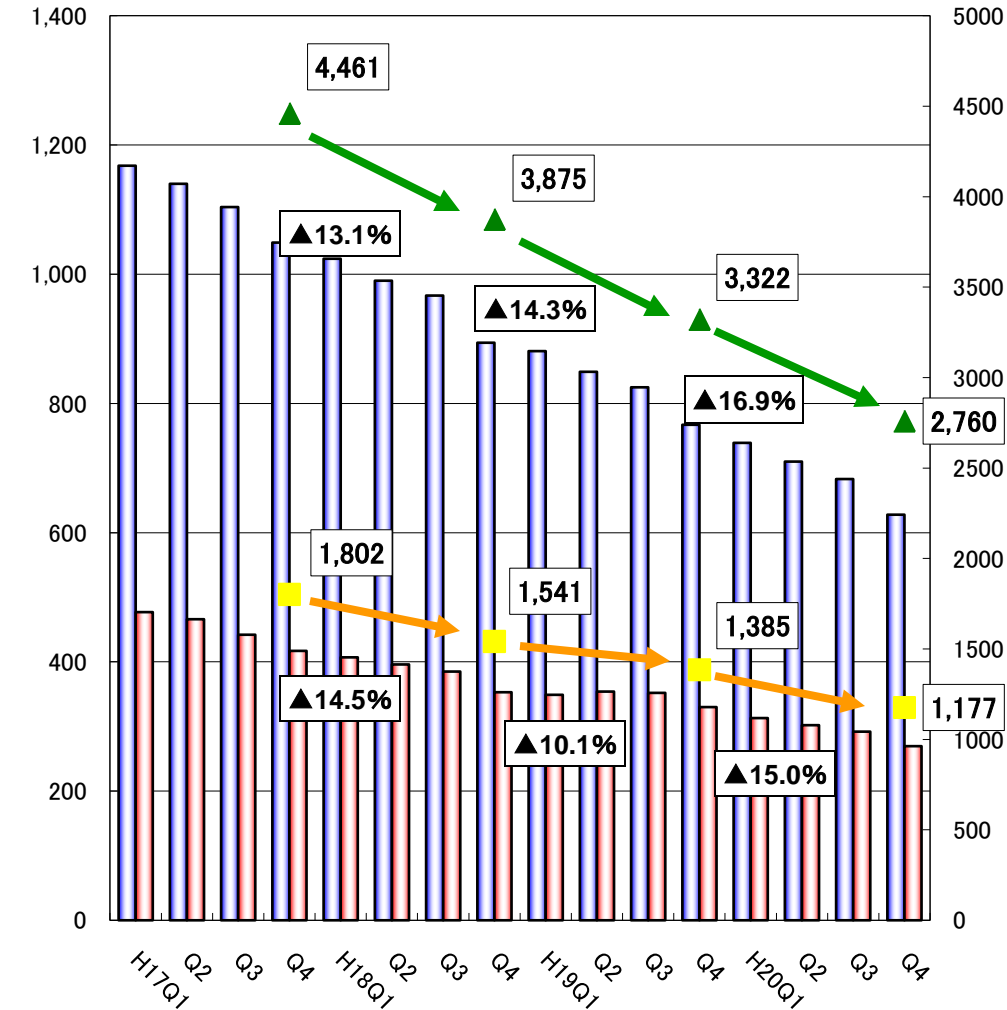
(単位:百万回)



通話時間

四半期

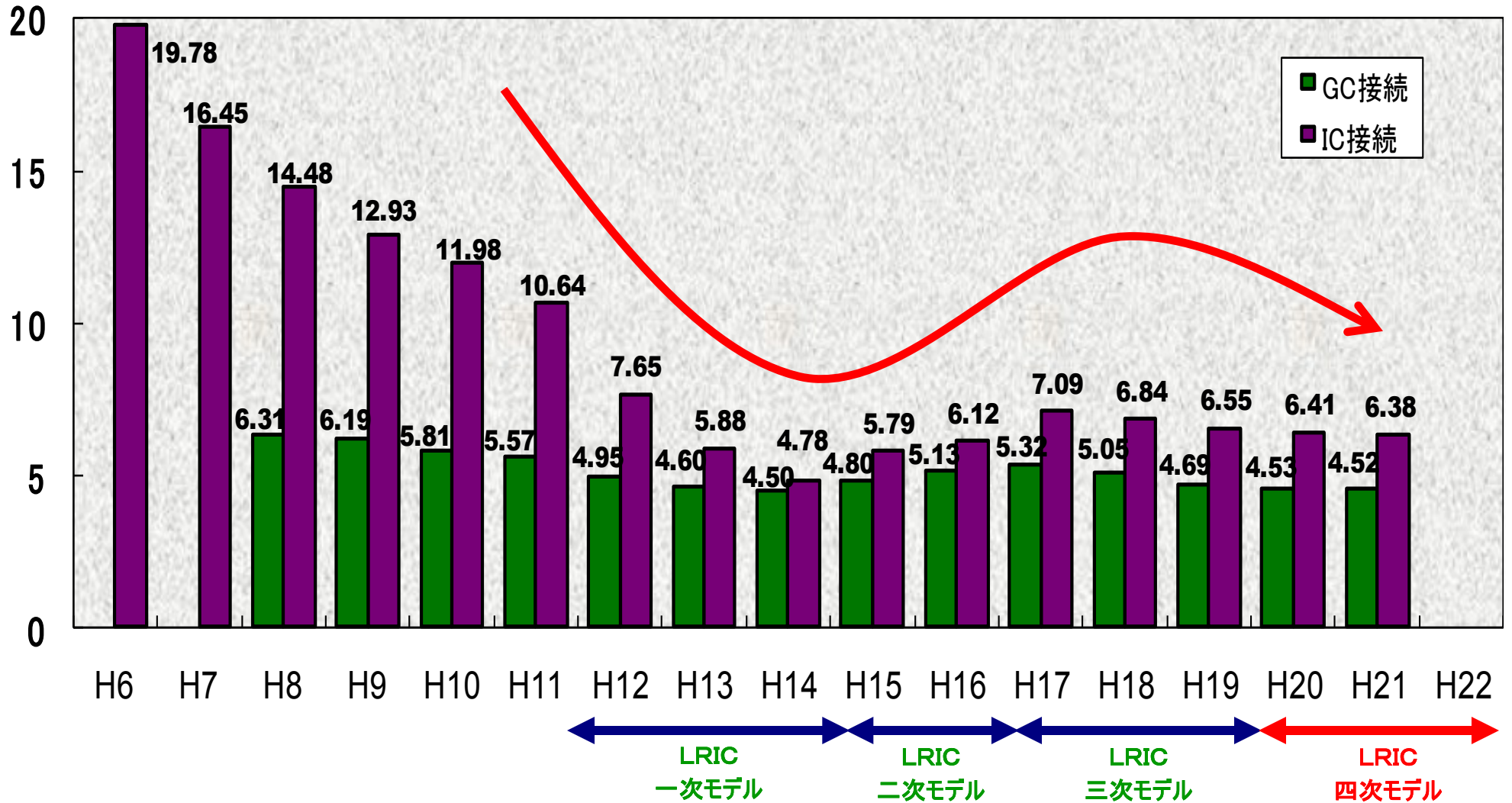
(単位:百万時間)



接続料の推移

(円/3分)

[3分換算料金 単位:円]



2) 長期増分費用方式を用いた接続料算定方式の推移(1/2)

12～14年度
LRIC一次モデル

- 端末系交換機能、中継系交換機能等の接続料算定に、初めて長期増分費用方式を導入

15～16年度
LRIC二次モデル

- 加入者交換機を経由する実績通信量(13年度下期+14年度上期の通信量)を用いて接続料を算定。
ただし、15、16年度の通信量が上記の通信量に対して15%を超えて乖離した場合に、NTT東西と接続事業者それぞれの通信量の変動の程度を勘案して精算を実施。
- 端末回線伝送機能(PHS基地局回線)及び中継伝送専用機能の接続料算定について、長期増分費用方式を導入。

17～19年度
LRIC三次モデル

- NTS(Non Traffic Sensitive)コストを段階的(5分の1ずつ)に加入者交換機能の接続料原価から控除。
- 事後精算制度を廃止。
- 適用年度に近い期間(前年度下期+当年度上期)の予測通信量を用いて、毎年、接続料を算定。

17年度接続料 (NTSコスト 1/5控除)	18年度接続料 (NTSコスト 2/5控除)	19年度接続料 (NTSコスト 3/5控除)
GC : 5.32円 IC : 7.09円	GC : 5.05円 IC : 6.84円	GC : 4.69円 IC : 6.55円

毎年度、LRIC入力値を当該年度のものに入れ替えて再計算

20～22年度
LRIC四次モデル

- 長期増分費用モデルで算定された収容局別のき線点RT-GC間伝送路費用のうち、実際のネットワークにおけるRT設置局である局舎の当該伝送路費用を段階的(5分の1ずつ)に接続料原価に算入。
- 上記以外のNTS(Non Traffic Sensitive)コストについては、引き続き、段階的(5分の1ずつ)に加入者交換機能の接続料原価から控除。
- 引き続き、適用年度に近い期間(前年度下期+当年度上期)の予測通信量を用いて、毎年、接続料を算定。

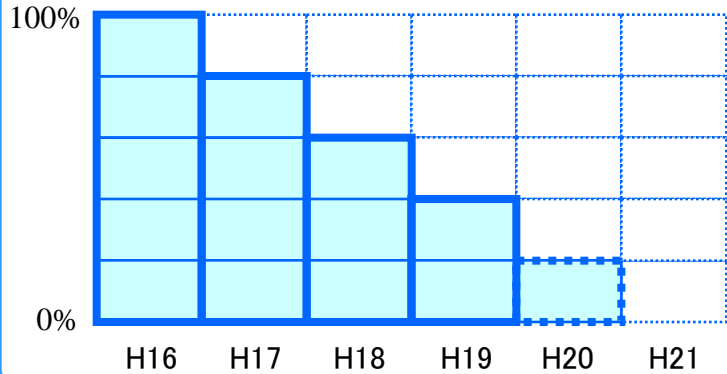
20年度接続料 (FRT-GC間の一部 2/5算入) (上記以外のNTSコスト 4/5控除)	21年度接続料 (FRT-GC間の一部 3/5算入) (上記以外のNTSコスト 5/5控除)	22年度接続料 (FRT-GC間の一部 4/5算入) (上記以外のNTSコスト 5/5控除)
GC : 4.53円 IC : 6.41円	GC : 4.52円 IC : 6.38円	GC : ●.●●円 IC : ●.●●円

毎年度、LRIC入力値を当該年度のものに入れ替えて再計算

今回LRIC研の目的

2) 長期増分費用方式を用いた接続料算定方式の推移(2/2)

従来のNTSコストの付替えテンポ



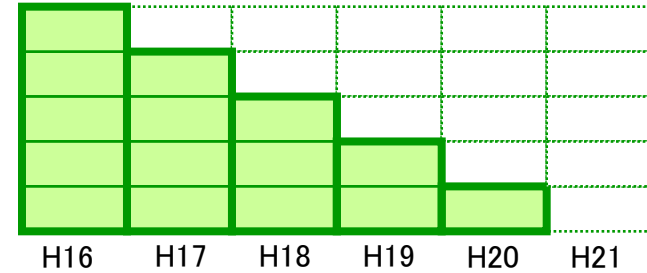
下記②以外のNTSコストは、これまでと同じテンポで付替え。

これまでNTSコストの控除を20%ずつ段階的に行ってきたことを踏まえ、当該費用を毎年度20%ずつ段階的に接続料原価に算入。

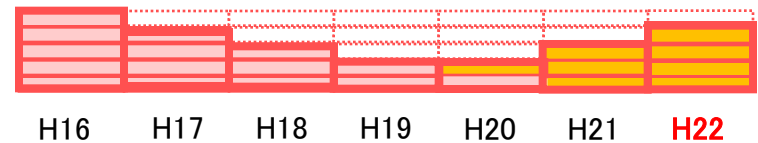
現行のNTSコストの付替えテンポ

き線点RT-GC間伝送路コストを接続料原価に算入する。

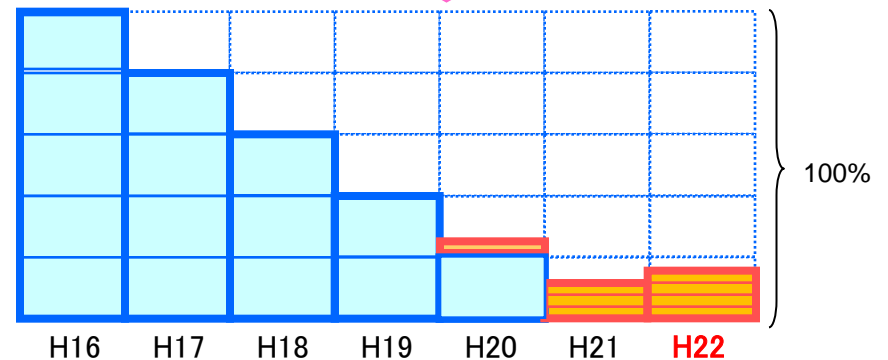
① 下記②以外のNTSコスト



② 現実のRT局に限定した「き線点RT-GC間伝送路コスト」



③ ①と②の合計



NTSコスト	(H19)	H20	H21	H22
き線点RT-GC間伝送路	40%	40%	60%	80%
上記以外のNTSコスト	40%	20%	0%	0%

4) 今回の入力値見直しの概要

1 基本的考え方

(1) 使用データ

- 平成21年8月～9月に入力値募集を実施。
- 得られた最新データを用い、一部フォワードルッキング性も加味したデータを使用。
- 実績値を用いるか、フォワードルッキング値を用いるかの選択は、これまでどおりとする。

(2) 推計手法等

- 原則として、これまで長期増分費用モデル研究会で検討、承認されてきた推計手法を使用する。

2 見直しの概要

(1) 実績値

- ①NTT東西の会計報告等に基づくもの
 - ・平成20年度会計報告等。
- ②各社データに基づくもの
 - ・入力値募集で得られた最新のデータを反映。

(2) フォワードルッキング性を考慮するもの

- ①施設保全費(効率化係数)
 - ・実績値に効率化係数を加味した目標値。
- ②公共的地下設備
 - ・入力値募集で得られた最新のデータをもとに算出。

(3) 経済的耐用年数

- 入力値募集で得られた最新の実績データ(平成20年度)により計算。

5) 今後の予定

① 平成21年11月17日

- ・ 接続料規則改正案の情報通信行政・郵政行政審議会(情郵審)諮問
→ パブリックコメントの実施

② 平成22年1月頃

- ・ 接続料規則改正に係る情郵審答申
→ 改正規則の公布・施行

③ 平成22年2月頃

- ・ NTT東西の接続約款の変更認可申請
→ 情郵審諮問、パブリックコメントの実施

④ 平成22年3月頃

- ・ 情郵審答申(平成22年度接続料の認可)
→ NTT東西の接続約款の変更認可

